

# 全鉄連情報

平成20年11月14日刊

[第68号]

目次

P 1 加盟団体報告

P 1 鉄鋼課連絡会報告

P 1～2 常任理事会報告

P 2～4 鉄流懇報告

P 4 企業消息

P 4 会員入退会

P 5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

## 緊急のお知らせ

中小企業の資金繰りを応援する緊急保証制度が10月31日からスタートしています。行政当局では経済環境の悪化に鑑み、すでにあった保証制度を拡充し、関係各方面に周知徹底を図っています。詳しくは別紙のとおりですのでご参照くださるようお願いいたします。

## 加盟団体報告

(平成20年10月1日～10月31日)

### マーケットは共有財産 担当者部会開催

#### △北海道鋼友会 (今井國雄会長)

9月25日(木)札幌アスペンホテルにおいて平成年度第2回担当者部会を開催。当日は全道から会員各社の営業担当者など34名が出席した。席上、今井会長は「北海道の景況感は悪化ないし弱含みで、先行き慎重な対応が求められている。電炉メーカーはスクラップ状況が目まぐるしく変化するなか、需要見合いの生産で対応している。共有財産であるマーケットを健全に維持していくことが大切で、そのためには安値受注を回避し、慎重・丁寧な商売で中身が残るよう、与信や債権の徹底した管理が重要である。特約店としての機能強化に日々努力しつつ、情報交換に努めてほしい。」と述べていた。また、需給調査委員長を務める浜中章央氏は「ファブリケーターやデベロッパー、セネコンなどの倒産が相次いでいる。Hクラスファブリケーターは札幌市内の大型物件を中心に仕事は豊富であり、その状態が継続している一方、中小物件の不足や鉄から他の素材への転換も進んでいる。今後、需要に期待が持てないなか、信用不安への対処を徹底してほしい」と語っていた。

### 限られた需要を大事に 秋の例会開催

会員企業のオーナーが一堂に会する秋の例会は10月28日(火)札幌グランドホテルで開催された。今回は一段と厳しくなる状況を踏まえて「売掛債権保全商品に関する講習会」を併催した。挨拶に立った今井会長は「米国発の金融危機による株価の暴落と為替のドル安円高は大きな不安材料である。バケツの底が抜けた感じで世界同時不況の懸念が強まっている。一本調子で伸びていた世界の鉄鋼生産が下方修正されることになるだろう。国内高炉も需要動向を見極めながらの生産調整を検討している。翻って20年度の道内鋼材需要は122万トンと想定され、そのうちの約80%は建設向けである。この限られたパイを大事にして、市況を維持し、下げ局面でもスローペースを保ちたい。会員各位には冷静な対応と、共通認識を持って難局を切り抜けていくことをお願いしたい」と所信を述べていた。来賓として招かれた全鉄連・林会長は「世界的に大変な事態が起きている。実態経済の混乱はこれから始まる。スクラップはかつてない市況の乱高下を見せている。これも経済のグローバル化によるものだろう。鉄鋼需要はなく、売り先がない。

景気対策として全国的に公共事業が必要。後世に残り資産となる道路、下水道などインフラ整備を進めていくべきだ。鋼材価格は店売りで紐付きで格差があるべきなのだが、流通が望んでいる格差と実態がまるで逆になっている点を問題視している。現状、在庫調整が急がれている。それを進めながら一定量の在庫を持って、耐えて見合いの販価で進んでいくしかない」と現状や見通しについて見解を述べていた。

### 地元選出の新藤議員を招き、講師例会

#### △川口鐵鋼会 (鈴木康之会長)

10月16日(金)において衆議院議員・新藤義孝氏を招き定例の講師例会を開催した。新藤議員は地元・埼玉2区(川口・鳩ヶ谷)選出の自民党代議士。会員には知己も多い。「混迷する政局と景気低迷によって四苦八苦する一般庶民を前に、日本の政治は何をめざし、何処へ向うのか」を直接聞こうとの趣旨でテーマを「混迷する政治、いったいどうなるのか?本当の話を知りたい」とした。新藤議員は「人口減少によりわが国の将来が憂慮される」としながらも「視野をグローバルに広げれば日本の技術や資産をビジネスに活かせるチャンスはたくさんある」と具体例を挙げていた。また、政治の目的は「国を良くすること」で、その手段として「選挙に勝って政権を獲り、法案を実行する」と語りながらも、現実には手段が目的を凌駕してしまったところに「政治の悲惨さがある」と指摘。来る解散総選挙については「政権争いのためのつまらない対立ではなく、実効のための選挙にしなければならない」そのため有権者には「目先だけでなく、将来の日本を健全に強くする人物と政権を選んでほしい」と呼びかけた。

## 関連会議報告

### 金鉄鋼課連絡会

10月22日(水)

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松淵・芳澤(経済省) 林・木下(愛知) 西村・山岸・佐藤(東京) 中村(大阪) 今井(北海道) 井上(神奈川) 小野(北九州) 南(石川)

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は126,300円前月比-2,200円、前年同月比+36,800円。経済産業省からは、原材料価格高騰対応緊急保証制度が10月31日から開始されることについて説明があった。本制度は、原材料価格の高騰や仕入価格の高騰を転嫁できない中小企業者の資金繰りを支援するため、現行制度の抜本的な拡充・見直しを行ったとのことであった。

### 常任理事会

●第5回鉄鋼営業中堅社員研修講座を11月21日(金)実施することが決定しており、その募集パンフレット

を提出し、講座内容を説明した。

●今年の3月から継続されて開催されている鋼材品質証明検討委員会の次回会合は11月13日(木)に予定されており、東京の出店文雄氏(出店鉄鋼)と事務局・星野が出席する。

●各地区代表者会議の20年度開催は見送ることになった。

●恒例の新年賀詞交歓会は、これまで「虎ノ門パストラル」を会場として実施してきたが、明年、平成21年新年の使用を最後に利用できなくなる。そこで代替会場として中央区日本橋箱崎「ロイヤルパークホテル」を会場とすることを決定した。

## 第404回鉄流懇概要

### 在庫増加傾向、市況下押し、慢性化する信用不安

●東鉄連からの概況報告(山岸・佐藤)

△鉄筋…スクラップの下げに戸惑いを覚えている。スクラップ輸出が全然決まらない。まだ、下がりそうな雰囲気である。特約店の成約量は3分の1ほどに激減している。相場も立たない状態である。

△平鋼…荷動きは8月から変わっていない。スクラップに先安感がある。客先には在庫意欲がない。現在は一番高い玉が入荷している。

△鋼管概況…9月部会調査では前月比で在庫11%増、出庫9%増、在庫横ばい。稼働日数が増えた分だけ増加した。10月も減退基調は変わっていない。

△H形鋼…5ヶ月前、店売りのH形鋼は1物5価であったが、今は1物2価となっている。5千円ぐらい値差があると思う。中小物件はない。中止、延期が相次いでいる。大型物件も減少している。生産に関しては必要最小限な規模となるだろうが、それが今後の在庫動向にどう係わっていくかは未知数であろう。

△一般形鋼…H形鋼に比べて在庫が多い。一部電炉の大幅値下げで先安感が出ている。安値も結構ある。

△C形鋼…分科会調査では、月間4千トン台の販売量で推移してきたが、8月に初めて3千トンを記録し、落ち込みの度合いが激しい。

△広幅製品…物件価格は値下げ傾向となっている。

△コラム…BCRに変わる傾向がある。納期遅れが問題となっている。下押し場面となり、需要減少に耐えられなくなっている。

△薄板概況…自動車メーカーは減産を発表。鋼製家具、住宅資材なども落ち込んでいる。在庫は潤沢。少し前まで申し込みは2~3割カットされていたが、今は全量受けてくれる。

△冷延…仕事が少ないが、店売り枠も少ない。与信不安が顕在化。そのため締め過ぎると窮屈になるが、ノーマークで売るわけにもいかない。

△表面処理…8月、9月と低迷し、末端需要は回復せず転嫁が通らなくなった。仕事をとっても与信不安が付きまとい、注意しているが想定外のことも発生するので気が休まる暇がない。販路が決まっており、値を下げたからといって余計に売れるわけではなく、それで在庫が捌けていくわけでもない。

△厚板耳付き、切板母材…荷動きがおもわしくなく、在庫は増えている。建設機械に多少陰りが出ている。建設

は中小が少ないため街場に出てくる切り板が少ない。短納期小ロットの受注に終始している。金融危機の影響も出てくるだろう。

△中板・ホットコイル…荷動き低調、在庫潤沢となっている。一部電炉の2カ月連続大幅値下げで購買意欲はない。メーカーの需要見合いの生産が課題となろう。その一方、輸入材が入ってくると考えられ、様々な要素が市場を形成してだろう。早めに在庫調整したい。

△厚板定尺…荷動きはよくない。メーカーカットが大きく、品薄感が年内、持続する。これが唯一の安心材料ではあるが、他の品種に引きずられる公算も強い。

△敷板…本来なら出ていなければいけない時期だが、引き合いはない。

△縞板…どうしようもない状態。見積もり引き合いが全くない。四半期ごとに販売に見合った契約をしているが4~6月の段階でこれほど落ちるとは思わなかった。

△鋼管概況…荷動きは非常に低調。今年の1~2月はどん底だったが、今は8月より9月が悪い状態となっている。昨年は改正建築基準法で売れなくなったが、現状、売れない理由が見つからない。安売り合戦が始まらなければいいのだが。価格崩壊を止めるダムは決壊していないが、大分貯水域が高くなっている。

△高炉品…このところの混沌とした世界景気で、海外のプラント物件は延期、中止となっている。7月から完全に潮目が変わった。現状、価格は維持されているが先々心配。

△溶協…2年続いて9月が8月より悪い。10月入りでも基調は変わっていない。前年比20~30%ほどの落ち込み。8、9月で大分在庫が増えた。先行き不透明なので申し込んでいない。

### 需要の先細りが鮮明

●OSAからの概況報告(中村)

販売量は前月比5.5%増加、前年比では11%減少。稼働日数が増えたわりには期待外れだった。現状は激減状態。在庫は緩やかに増加している。仕入れが増えたわけではなく販売減によるものである。市況は厚板以外弱含み。安値販売が散見される。電機メーカーの設備投資の話も、未確認ながら延期されるようだ。相変わらず中小物件は少ない。造船先物は減少傾向となっている。採算は悪化し、どうなっていくのか不安である。

### 販売不振と在庫損で採算難

●愛鉄連からの概況報告(木下)

悪いの一言である。自動車メーカーの減産は加速し、3次、4次下請には仕事が回って来ない。工作機械も機種によっては大幅な調整を余儀なくされている。延期、中止になる物件が相次いでいる。ファブでは仕事に穴があいている。市場縮小が続いて、信用不安は顕在化。深刻な状況が前月同様続いている。在庫、契約残が評価損となって、赤字販売を強いられるようになった。10月も販売不振が継続しており、それを映して市況は棒、形中心にジリ安となっている。一番の関心事は大幅に下げたことによる今後の市況展開である。混乱が予想されるが、製販共に真価が問われる時でもある。

### 在庫調整が愁眉の急

●神奈川からの概況報告(井上)

県内の倒産件数、負債金額とも増加している。マンシ

ョン着工戸数は前年比3割弱の減少。鉄筋は、スクラップの先安でゼネコンからの引き合いはゼロに等しい。信用不安が蔓延し、どこに売っても心配だ。輸出向け大型建設機械は年内大丈夫だが、小型は落ち込んでいる。道路関連のまとまった案件は出ているが、例年より少ない今は在庫を減らすことが急務。

## 急激に冷え込んだ市場マインド

### ●北九州からの概況報告（小野）

土木関連はこれから出てくるだろうが、仕事は減り気味である。あの大幅値下げでマインドが冷えた。いくらで売ったらいいのかわからない。おかしな状態である。ゼネコンもあたふたしている。マインドが冷えすぎて呆気に捕らわれている。信用不安は相変わらずで、スクラップ業者にしても今までは業績がよかったが、この急落で不安視されるようになった。業界を取り巻く釣瓶落としのような状況はどうしようもない。再三、言及されている紐付きと店売りの問題であるが、現状の価格体系では流通は勝負できない。あまりに値差がありすぎる。そして、このような状況だとさらにギャップが生じる。需要低落のなか大きな問題となろう。

## 公共以外の需要は半減

### ●石川からの概況報告（南）

多少、公共物件は出ているが、他の需要は半減している。ともかく不透明で、製造メーカーの社長が言うほど安泰ではない。急カーブで価格は上昇したが、5月GW売れなくなり、このたびの価格急落で大変な状況となった。早期に事態が収拾することは望み薄である。

## 経験にない製品やスクラップの乱高下

### ●林会長（総括）

今年前半は資源及びコストインフレにより各品種とも価格が上昇したが、ここにきてその上昇分を掃き出すだけでなく、それ以下の水準になりそうである。さらにサブプライム問題もあり、単に鉄鋼需給だけでなく金融収縮・不安という問題も加わって世界的な鋼材市況の続落を招いている。特にスクラップは、かつてないレベルまで高騰した後で急速に落下し、未だ下げ止まる気配がない。このような状況が続けば、コスト面で電炉が優位となる可能性もあり、高炉は、資源メジャーによる寡占化の中で如何に主原料コストを抑えられるかが、今後の課題となろう。世界経済のグローバル化により、鉄鋼流通はかつて経験したことのない暴騰、暴落という急変化の只中に陥っており、極めて厳しい状況にある。これまで需要家には、鋼材価格の値上げ理由としてスクラップなどの原料価格高騰を説明してきたが、状況が逆転した。流通はスクラップ価格の乱高下という未体験の事態におかれ厳しい対応を迫られている。他方、店売りと紐付きの価格差の問題が何年も続いている。スクラップ価格の暴落により、一部電炉メーカーは大幅な価格見直しを発表し、流通は需要家から種々要請を受けている。紐付きは高品質なうえ納期厳守の制約もあり、それなりの製造コストを要するものと理解しているの、メーカーの公明正大な対応を期待する。

\*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

## 緊急総合対策発動、金融保証制度を拡充

### ●経済産業省（松淵）

東京商工リサーチでは毎月、全国企業倒産状況を公表している。それによると、9月の全国の倒産件数は1,408件、負債総額は先のリーマン・ブラザーズ証券とその関連会社の経営破綻の影響から5兆3625億円にも達しており、倒産件数は前年同月比で361件増で、1,400件超えは2003年5月の1,452件以来の5年4カ月ぶりである。産業別では製造業、卸売業、金融・保険業で今年最多を記録した他、燃料高の影響が深刻な運輸業では倒産が前年比倍増。建設業は3ヶ月連続で400件を超え、大型倒産が多発した不動産業では前年同月比3割増と相変わらず状況にある。こうした昨今の厳しい経済情勢のおり、8月29日の政府・与党で決定のなされた「安心安全のための緊急総合対策」において、新たな保証制度（原材料価格高騰対応緊急保証制度）の導入が決定された。10月21日の閣議後の二階大臣の記者会見で本制度の実施について発表された。本制度は、原油に加え原材料価格の高騰や仕入れ価格の高騰を転嫁できない中小企業者の資金繰りを支援するため、現行制度の抜本的な拡充・見直しを行ったものである。先の「安心安全のための緊急総合対策」のなかでは、中小企業対策について「原油・原材料価格の上昇に伴い、世界的に価格体系の変化が生じていることから、我が国企業が新たな価格体系へ円滑に移行できるような環境を整備する。特に中小零細企業では価格転嫁が困難な場合も見られるため、資金繰り対策に万全を期し、弱い立場にある下請事業者対策を強化すること」が挙げられている。こうした対策を進めるため本制度の実施については、世界的な金融危機、原油に加え原材料価格の高騰や仕入れ価格の上昇により大きな影響を受ける業種を幅広く対象とすべく、四半期ごとに指定している現行のセーフティネット5号指定業種185業種に加え、原材料高騰や仕入れ価格上昇を転嫁できていない製造業、卸・小売、飲食などの業種を大幅に追加、拡大し、緊急保証特定業種として545業種を指定した。もちろん鉄鋼流通関係については現行のセーフティネット5号特定業種に指定されているので、この緊急保証制度の対象となっている。本制度の実施により全国の中小企業の3分の2をカバーすることになる。厳しい状況が年末年始に向けて続くが、必要に応じて資金繰りの一助に本制度を適切に活用していただきたい。

## 需要見合いの生産に徹する

### ●小野会長

この1ヶ月で状況は一変した。金融危機はもはや対岸の火事ではなく、いよいよ実態経済に影響を及ぼしている。お金が回らなければ経済も回らない、ということがはっきりしてきた。米国はいわば金融恐慌の状態、欧州、アジア、日本にどの程度波及してくるかは未知数だが、非常に厳しい状況を迎えている。全鉄連の10月アンケートによれば、品種全体DIが▲30となっている。平成14年に▲30を下回ったことがあるとの話だが、海外市況が大混乱したのがその年である。これに匹敵する事態が足元で起きている。そういった実感が流通にあるということを我々としても重大に受け止める必要がある。今、我々がすべきことは速やかにアクションをとることだ。JFEの例を挙げれば、予てより申し上げている通り、実需に見合った生産に徹することに尽きる。どうしても見掛け消費を過大に評価しがちな傾向がある非常に難しいことではあるが、本当の実需を見極めるこ

とが大事であり、その上で、従来以上に実需に見合った生産を徹底していく必要があると考えている。また、中国が再び輸出量を拡大していることから、各国が通商問題に非常に神経質になっている。こうした通商問題にも十分に留意しながら、今後、取り組んでいく必要があると思う。

会員企業消息（平成20年10月 1日～10月31日）

〔所在地・代表者変更など〕

○武部産業㈱（東鉄連・本所）～新代表者に長澤裕介氏が就任した。

会員入退会（平成20年10月 1日～10月31日）

〔入会〕

\*該当事項なし

〔退会〕

\*該当事項なし

10月21日締切で、当会役員168名に対し、このアンケートを行ったところ、106名(63.5%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

\*D I 算出方法= (A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

数量大幅ダウン続く

【問1】貴社の9月(先月)の総売上金は、前年同月比如何でしたか。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	売上	A	B	C	D	E	計	9月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	前年比	10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		D I
▲57	▲56	▲54	▲74	▲22	36	34	34	▲45	▲53	▲39	▲95	数量	7<7%	6<6%	26(24%)	27(25%)	40(38%)	106	▲82
▲47	▲24	▲38	▲53	4	4	110	110	59	+81	+95	+54	金額	46(43%)	14(13%)	23(22%)	16(15%)	16(15%)	106	+72

実需低迷、全向け先で販売減

【問2】貴社営業窓口から見て10月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	販売量	A	B	C	D	E	計	10月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	前月比	かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		D I
▲59	▲65	▲66	▲82	▲59	▲34	▲87	▲89	▲75	▲64	▲84	▲52	公共建設向		6	32	20	23	81	▲74
▲64	▲85	▲81	▲84	▲47	▲18	▲67	▲82	▲60	▲54	▲79	▲63	民間建設向		4	33	25	27	89	▲84
▲14	▲11	▲11	▲15	2	2	▲24	▲40	▲28	▲33	▲51	▲22	自動車向			19	19	9	47	▲79
▲32	▲39	▲44	▲47	▲8	1	▲41	▲59	▲48	▲41	▲67	▲36	その他需要家向		6	33	34	13	86	▲63
▲45	▲43	▲58	▲52	1	3	▲53	▲69	▲47	▲52	▲80	▲64	仲間取引		4	25	32	16	77	▲78
▲46	▲53	▲56	▲61	▲25	▲11	▲58	▲71	▲54	▲50	▲74	▲50	計		20	142	130	88	380	▲75

7ヶ月ぶりに三桁割る

【問3】貴社の9月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	企業	A	B	C	D	E	計	9月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	収益状況	黒字	赤字	収支トントン	赤字	赤字		D I
52	59	71	16	38	116	142	143	128	133	137	106		41(39%)	30(28%)	25(23%)	6(6%)	4(4%)	106	+92

不需用期でさらに需要は減少傾向へ

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	需要動向	A	B	C	D	E	計	10月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	予測	増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		D I
▲4	▲36	▲59	▲29	18	2	▲32	▲30	▲28	▲26	▲34	▲45		0(0%)	9(8%)	25(24%)	31(29%)	41(39%)	106	▲98

厚板以外は過剰気味へ

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	需要状況	A	B	C	D	E	計	10月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	厚板角虫	非常に不足	やや不足気味	ほぼ需給均衡	やや過剰気味	非常に過剰		D I
21	±0	▲10	2	13	41	40	44	17	+15	4	▲8	鉄筋用丸鋼		2	34	17	2	55	▲35
±0	▲2	▲10	▲6	10	19	15	26	11	▲2	▲4	▲7	構造用丸鋼			45	9	1	55	▲20
▲5	▲14	▲11	▲9	11	31	43	22	15	+9	▲4	▲14	平角鋼			35	21	1	57	▲40
▲8	▲29	▲35	▲3	37	86	97	93	56	+32	7	▲13	H形鋼		1	28	25	4	58	▲55
▲27	▲31	▲44	▲27	▲4	59	93	95	94	+80	58	+44	コラム	1	8	27	6	2	44	0
▲13	▲24	▲14	▲15	12	45	40	30	21	+8	▲11	▲20	小形山形鋼			36	16	7	59	▲51
▲10	▲24	▲14	▲13	13	49	48	34	16	+11	▲7	▲24	中形山形鋼			34	20	6	60	▲53
▲8	▲19	▲13	▲10	20	79	78	61	48	+31	12	▲4	溝形鋼		1	38	14	5	58	▲40
▲23	▲31	▲33	▲25	▲15	8	12	2	▲3	▲15	▲20	▲29	軽量形鋼C形			33	19	1	53	▲40
▲16	▲18	▲24	▲12	▲14	13	16	5	2	+3	▲3	▲14	軽量形鋼広幅			30	6	1	37	▲22
▲24	▲27	▲30	12	45	91	69	73	46	+32	2	▲2	冷延薄板		1	28	18	2	49	▲43
▲13	▲19	▲23	12	48	87	75	52	32	+19	▲3	▲17	熱延薄板		1	34	20	5	60	▲48
▲24	▲24	▲25	±0	36	82	67	57	34	+12	▲8	▲18	表面処理鋼板		1	33	18	2	54	▲39
▲24	▲24	▲28	39	100	135	98	65	34	+20	▲14	▲29	酸洗鋼板		3	19	20	10	52	▲71
▲6	▲18	▲13	11	69	92	78	48	44	+17	▲4	▲10	中板	1	1	32	27	5	66	▲52
29	38	47	63	90	105	122	102	88	+86	76	+66	厚板	6	20	29	8		63	+38
50	64	66	83	100	118	120	113	102	+110	100	+92	極厚板	8	18	15	3		44	+70
▲6	▲14	▲4	▲4	5	42	49	20	25	+9	7	+4	縞板		1	39	13	1	54	▲26
▲23	▲22	▲29	▲17	▲9	22	26	13	10	+9	0	▲6	中径角		1	41	12	3	57	▲30
▲18	▲16	▲18	▲14	▲7	24	28	13	12	+13	0	▲4	ガス管・黒		2	43	10	2	57	▲21
▲19	▲18	▲23	▲17	▲6	23	25	15	2	+4	▲6	▲5	構造用鋼管		1	39	7	2	49	▲20
▲8	▲14	▲14	2	26	61	60	47	34	+24	7	▲2	計	16	62	692	309	62	1141	▲30

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	伊藤忠丸鉄鋼	大手向けはまだまだ好調であるが、不安要素が出てきている。構造用鋼管は荷動き非常に悪く、現状価格の維持が精一杯の状況。シームレス鋼管は国内向け供給が引続き絞られているので需給タイト感変わらない。	岡谷鋼機 8月末の薄板三品在庫は429万トと前月比22万ト増加した。例年、休みの影響で大幅に増える傾向ではあるが例年よりも増加幅が大きい。依然として低調な建材需要に加え、自動車、産建機など製造業向けの生産調整も影響し、市中の高動きは一段と悪化。 そのような中、市中では売り無りの販売も散見され、市況は熱延材では弱含み、冷延、コキ材においても天井感がでている。	J F E 商事 造船の旺盛な需要を主体に厚板の需給環境はひっ迫感が続く。国内需要の不振、米欧の景気減退といった不安要素もあるが、依然根強い需要はある。また高炉メーカーの能力増強工事による一時的な生産量の落ち込みもあり、需給のタイト感では下期も継続。	兼松 棒鋼 スクラップの下落を受け、市況は弱基調で推移している。セネコンは当用買いに徹しており、物件は少なく、引き合いは低調となっている。 形鋼 棒鋼と同様にスクラップの下落により、先安感があり、足元の物件は少ない。市況はじり安傾向となっている。流通在庫は、荷動きの悪さと先安感により、最低限の数量とし、新規注文を抑えている。
2. 需要産業動向		自動車向・建設機向けは生産調整の動きが広がっている。建設分野向けは低調に推移。造船向けは引続き堅調。プラント向けは小型定修案件のみ。	8月の自動車輸出実績は米向けが20.8%と大幅減少の影響から前年同月比2.2%減の49.7万トと37万トぶりに下げに転じた。輸出の不振を背景に国内生産実績も前年同月比10.9%減の77万トにとどまり、その下落幅は1998年5月(19.7%減)以来、10年ぶりの大きさ。建設関連では、前年度の法改正の影響で低水準であった反動から8月の新設住宅着工戸数および建築着工床面積はともに4割を超える増加となった。年率換算では新設住宅着工戸数は113万戸レベル、建築着工床面積も07年度を下回るレベルで回復の足取りは重い。	造船の8月末手持工事量は前月比1.3%増の6,998万G/T、7ヶ月連続で過去最高記録を更新。建機は8月の出荷金額ペースで2,054億円で前年同月比0.8%減(国内630億円 12.1%減、輸出1,425億円 6.1%増)。国内で5ヶ月連続減、輸出で7ヶ月連続の増。総合計で2ヶ月振りの減少。国内の油圧ショベル等の減少が著しい。橋梁は前年度着工繰り延べ分もあり、足元ファブの工事量は充分にあり、材料が確保できれば加工は年度内確保できる模様。建築は大型物件は首都圏を中心に継続しているが、小建築案件は全国的に低迷している。	8月の住宅着工は、持ち家、貸家、分譲住宅ともに増加したため、全体で増加となった。新設住宅着工床面積は8221万㎡。前年同月比45.1%増、2ヶ月連続の増加。民間非居住建築物は事務所、店舗、工場、倉庫ともに増加したため、全体で増加となった。45.7%増、2ヶ月連続の増加。 建設関連企業の信用不安が拡大する中、新規着工の中止、延期、縮小を検討する動きが相次いでいる。
3. 輸出入動向		8月度の輸入はシームレス管・溶接管ともに前月比若干増であるが、低レベル。輸出は油井管搬送用、ラインパイプ7%減。	8月の薄板三品入着量は24.9万トと前月比11%(3.1万ト)減少した。品種別では、冷延は7.6%(1.8万ト)の減少となったが、熱延が+9.3%(0.6万ト)と5ヶ月連続、亜鉛メッキでは+36.4%(0.7万ト)と2ヶ月連続での増加となった。	8月の輸入通関実績は23,400t、前月比6,800t増。中国から18,000t、前月比7,000t増。	8月の異形棒鋼の輸出は、57千tで前月の41千tを上回ったが、9月以降は国際価格の下落により、新規成約は難しい状況にある。8月のH形鋼の輸出は、22千tと前月比微増。 輸入 8月のH形鋼の輸入は前月比半減の9千t、主に中国品。 今後は、汎用鋼材の韓国、中国からの対日輸出の傾向が強まるものとみられる。
4. 海外市場動向		油井管・ラインパイプともに足評やや油価軟化しているものの商談は引き続き堅調推移している。	8~9月にかけて、欧米経済の景気減速が一段と鮮明になり、中国やインドなど新興国でも成長ペースが鈍化している。薄板市況も主要市場で頭打ちとなっており、米国、中国など一部地域では熱延材が軟化し始めている。鋼材需要を取り巻く環境に大きな変化が現れている中、中国では一時期より伸びが鈍化したものの依然、高水準の生産を継続し、鋼材輸出も8月まで2ヶ月連続で月間過去最高を更新するなど増勢を続けていく。このような状況下、今後の海外の鉄鋼需給環境には一層の注意を払う必要がある。	ひっ迫感を増す需給環境下で、国際的な厚板価格は当面強気調で推移するものと見られる。	中国国内の鋼材市況は、下げ基調のまま、様子見で相場がたない状況が続いている。先安感がいつどのような要因で止まるのか見通しがたないようだが、大手高炉メーカーが12月積み鋼材価格を表明することにより、市況が形成されると思われる。鉄筋のスポット価格 台湾\$525、上海\$512 (10月15日現在)
5. トピックス					スクラップ市況は、東京製鐵の宇都宮工場のH2で24千円(10月16日現在)、9月の高値価格45千円から21千円下落。3万円割れは昨年の2月以来、1年8ヶ月ぶり。世界的な金融不安を背景に韓国国内の景気減速感も強まっており、新規の輸出成約がストップしている。市中在庫は国内電炉メーカーへ必要量を上回る入荷となっており、製品需要の減退でメーカーの買い意欲は乏しい為、先安感が台頭している。

## 鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2008年10月)

発表項目	発表者	高炉
	電炉	高炉
	合同製鉄	J F E スチール
1. 需給動向 (景況感)	<p>○建築着工統計による8月の建築着工床面積は非木造が前年同月比+73%と2ヶ月連続で増加となったが、昨年8月は改正建築基準法施行直後で着工面積が急減している時期であり、基準法施行前5年間の8月平均比では減少となっている。</p> <p>○マンション着工戸数も全国で16.1千戸と前年同月比+129%と増加となったが、これも前年同月は改正建築基準法の影響から大きく落ち込んだ数値となっている。</p>	<p>世界の金融市場は、極度の緊張下にある。米国家計は、住宅価格と株価の下落を背景に萎縮しており、新興国経済も、輸出の鈍化とインフレによって減速している。4-6月期にマイナナス成長となった日本経済は、7月以降も生産、受注、輸出、消費、雇用、景況感などほとんどの指標が、経済活動の悪化を示しており、先行き不透明感が強まっている。</p>
2. 需要産業動向	<p>○8月の首都圏マンション販売戸数は2041戸で、前年同月比38.8%の減少、前月比では42.6%の減少。</p> <p>○マンション契約率は70.9%(前年同月比+5.3%、前月比+17.4%)と3カ月ぶりに70%を回復。</p>	<p>国内鉄鋼供給は、内需を牽引してきた製造業の活動が鈍化し、普通鋼と特殊鋼を合わせた8月の内需向け鋼材受注量が前年同月比6.6%減の552万トンとなるなど、粗鋼生産と鋼材輸出は堅調ながら変調が見られる。また、8月末の普通鋼鋼材在庫は、前月比で34万トン増の546万トンと再び増加に転じ、在庫率も119.8%と05年8月(124.9%)以来の高水準となった。</p>
3. 輸出入動向	<p>○ビレットの輸出数量は7月が前年同月比+161%の122千ト、8月が前年同月比+181%の122千ト。</p> <p>○鉄筋棒鋼輸出数量は7月が42千ト(前年同月比+228%)、8月が57千ト(前年同月比+328%)。</p> <p>○しかし、9月以降はアジアをはじめ各国の鉄筋、ビレット市況が急落しており数量は大幅に減少するとみられる。</p>	
4. 海外市場動向	<p>○鉄スクラップ価格の下落や、安価な中国材の流入によりアジア各国の鉄筋市況は弱含みに歯止めがかからない状況となっている。</p>	<p>新興国の経済拡大ペースが鈍化する中、鋼材市況は主要市場で頭打ちもしくは軟化している。中国は、8月に鋼材見掛消費量が前年比減に転じたこともあり、粗鋼生産量の伸びは鈍化したものの、鋼材輸出量は過去最高となる736万トンを記録した。(9月は667万トン)</p>
5. トピックス	<p>東京製鉄のスクラップ購入価格(公表値)は岡山工場(陸上)22.0千円/ト、宇都宮工場22.0千円/ト。(10/16現在)</p>	